

独自価値の打ち出し
更なる拍車で存在感-④

コスメディ製薬

スキンケア分野に加え医療分野でも
世界に無いサービスを京都から提供

京都薬科大学における経皮吸収の基礎研究で培った技術をもとに医薬品、化粧品及び医療用粘着製品を数多く生みだしているコスメディ製薬。マイクロニードル技術を活用したこの次世代ワクチンを始めとした独創的な発想力と高度な技術力で、新しい価値を創造し続けている。福元芳史執行役員戦略営業部長に、事業の現状や今後の方向性などを聞いた。

——TTS（経皮吸収治療）研究、技術開発の成果が高く評価されています。

「我々は2008年、マイクロニードル化粧品を世界（※）で初めて上市し、医療・医薬領域と、独自の化粧品ブランド、また、OEM、ODMなど様々な販路で、国内及び海外の企業様にその技術をお届けしています。マイクロニードルとTTS技術の第一人者である当社会長の神山と、社長の権の京都薬科大学での研究・開発により、医療よりも先に化粧品分野から展開を開始しました。他社にはない『溶解型マイクロニードル』の特長は、折れずにしっかり刺さる『富士山型』の形状をしている点と、『マイクロニードル』と『オイルゲルパッチ』が一体化されている点になります。2023年には『コラーゲン』を主体としたマイクロニードルの開発にも成功しました。これは、非常につくるのが難しいのですが、安定性も実現させた独自の品質と自負しています」

——「富士山ニードル」は、2015年に日本のグッドデザイン賞を受賞されています。

「世界3大デザイン賞である『iFデザインアワード2023』など、数々の賞をいただき、昨年1月に開催した『KYOTO JAPAN IN DUBAI 2024』の出展では、京都発の企業として『創

造的デザイン賞』を受賞しました。開催現地のドバイでは『マイクロニードル』や『貼るサプリ』など多くの方々に興味を持っていただけたと思います」

——昨年には「タウリンニードル」を上市されました。特長はどういったものでしょう。

「『タウリン』というと栄養ドリンクに入っている体に良いものと思われる方がほとんどだと思います。我々は、アミノ酸の一種『タウリン』に着目しました。タウリンを髪の毛の6分の1の細さにマイクロニードル化させる技術で、更にその中に成分を入れて肌に溶け込んで浸透をさせることができます。肌への低刺激性と浸透性の高さが特徴になります」

——海外展開はいかがですか。

「自社の化粧品ブランドの『京薬粧』と『千の潤い』は、海外でも展開しており、特に台湾での売り上げが一番伸びています。約400店舗あるドラッグストア『康是美（コスメド）』での販売、台湾のECサイトや、テレビショッピング『momomom』、ライブコマースでのプロモーションにも注力しています。台湾以外にも、ロシア、ドバイ、アゼルバイジャン、カザフスタンに展開しています。香港では、ドラッグストアの『萬寧（マニングス）』で約200店舗ほど展開しています」

——海外での動きは今後も期待できそうですね。国内でのプロモーション施策はいかがですか。

「『千の潤い』では、おぐねえーの愛称で親しまれる美容家の小椋ケンイチさんとのコラボレーションや、TikTokでのプロモーションが効果を上げています。昨年4月に発売の『京薬粧』は、約1年が経過した現在、アウトプロモーションを中心に、バラエティショップからドラッグスト



独自のマイクロニードル技術を活用した
アイテムを多数展開

日本国内だけでなく世界へ届ける マイクロニードル化粧品を

アへの展開に注力しています。8月には美容液をリニューアルし、マイクロニードルの本数を400万本から2000万本にグレードアップします。タウリンニードル自体もより細かくすることで、さらに浸透性を高め、使い心地も改良しました。バラエティーショップでは20～30代、ドラッグストアでは30～50代というように、業態によってターゲットを変え、幅広い年齢層にアピールしています。ドラッグストアでは九州、四国エリアの『ドラッグイレブン』や『イオン』、広島エリアの『ザグザグ』を中心に展開しています。店頭什器では、アイキャッチなディスプレイで技術力をアピールしています」

——大阪・関西万博にも出展されています。また、新しい動きはありますか。

「大阪・関西万博の『Japan Expo Paris in Osaka 2025』では、マイクロニードル技術を体験できるブースを出展しました。お子様から高齢の方まで幅広い層が訪れ、非常に大盛

況でした。新しい動きとしては『レシソーム』という技術があります。細胞膜の主成分である『レシチン』に着目した独創的なW/W/O型乳化技術で、もともとはアトピーなどの乾燥肌の方に向けてワセリンを使用しやすくするために開発したものです。水溶性分子とオイルの絶妙なバランス配合により、塗った瞬間にみずみずしいテクスチャーの使用感を実現しました。化粧水、乳液、クリームなどの全ての製剤に応用が期待できると考えています。我々は京都、桂、吉祥に三つ工場を持ちますが、スキンケア分野で液体物の開発が可能な設備も整えました」

——最後に、業界関係者に向けてメッセージをお願いします。

「OEM、ODMメーカーとしてスキンケア分野はもちろん、医療分野においても、コロナやインフルエンザなどのワクチン治療や、注射嫌いのお子様の泣くような姿をなくしていけるような課題にも応えるようにしていきたいですね。この先も世界にないものを京都から発信し色々な分野に貢献しながら、世の中にとってプラスになっていくサービスを提供していきます」

※公益社団法人
日本薬剤学発行
学会誌「薬剤学」より



福元芳史執行役員
戦略営業部長